介護の現場から その43

「らしさ」を大切に

健楽園居宅介護支援センターみはら
副主任介護支援専門員 大戸 一憲

私は、平成20年4月から、健楽園居宅介護支援センターみはらに勤務しています。池幸園（特別養護老人ホーム）で介護員として勤務していたので、ホームでの入所者の介護と支援センターの相談・援助業務の両方にかかわることができ、貴重な経験をさせてもらっています。

5カ月の入院を経て、ようやく退院することになった一人暮らしのAさん（80歳・女性）を担当することになった私は、早速入院している病院を訪問しました。すると、Aさんは一人暮らしに不安を感じ「できれば施設に入りたい」と訴えます。病院での生活が長くなり、24時間見守られる生活をしてきたためか、退院後に見守られない不安が大きいようでした。

Aさんのこれまでの生活を聞きながら、気付いたことがありました。それは、隣近所の方々、町内会長など地域の皆さんとのかかわりが実に多いことです。一人暮らしということもあって気にかけていただいていたこともあるのでしょうが、日ごろから近所の方々が出入りし、家事を手伝ったりしながら親身になって協力してくれている様子が話から分かりました。

このように地域とのかかわりの多いAさんであることからも、在宅における生活を重視し、自宅での必要な援助内容をAさんと相談しながら決めていき、サービス事業所との調整を図りながら退院の日を迎えました。

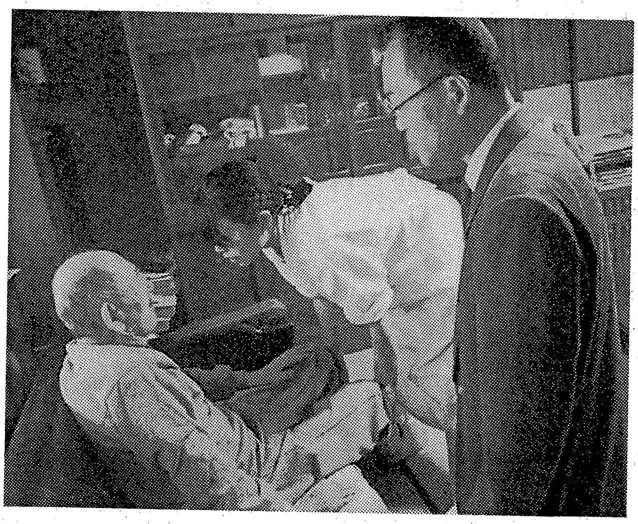
言動や動作を見つめる

現在はご自宅で、入院前のように生活されています。近所の方々との交流も変わりなく、介護サービスだけではなく、周りの人々にも支えられて、孤独感から解放され、安心した生活が送られていると感じています。

地域の中では、高齢者を対象にした集いの場が増えています。「お茶のみサロン」や一人暮らしの高齢者を対象にした会食会です。年を重ねるにつれ、出かける先が少なくなったり、仲が良かった方ともさまざまな理由で疎遠になったりと孤立しがちです。地域の中では元気に過ごしてもらいたいという地域の方々の強い思いがさまざまな取り組みの原動力となっています。

介護を必要とする高齢者を対象とした介護保険の居宅サービスには、「通所型」と「訪問型」があります。

通所型には、デイサービス、デイケアがあり、1人で出かけるのが大変な方を送迎し、リハビリを目的とする方にはリハビリの利用などその目的は多様です。また、訪問型では、訪問介護（ホームヘルパーが訪問）のほか、その人の体調に合わせて訪問看護（看護師が訪問）、訪問リハビリ（理学療法士、または作業療法士が訪問）、訪問入浴（移動入浴車による入浴）などがあります。



私は、相談・援助の業務は、その人らしさを大切にし、どのようにしたらそれが見えてくるのかを重要と考えています。介護を要する方ができなくて困っていることだけに気を取られると、足りない部分を補おうとしますが、それが本当の解決につながるでしょうか。長い人生を過ごされた今までの生活を大切にし、今できている事をさらに充実させるため、地域のさまざまな取り組みやいろんな介護サービスを話し合いながら選択をし、その人に合ったサービスを提供することでその人らしさを回復して自信がついていくものだと思っています。

そのためにも、介護を要する方の一つ一つの言動や動作などを注意しながら見つめ、お互いに「気付き」を大切にした対話を心がけたいと思います。

†

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。